

祇園小学校 校長だより（第54号） 令和元年度第19号 令和2年1月8日
校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之
学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

新年、あけましておめでとうございます

令和2年（2020）の輝かしい年をお迎えになられたことと思います。オリンピック・パラリンピックが開催される年です。明るく活気に満ちた年となることを願っています。

スポーツのできる子どもは勉強もできる

最近、『スポーツのできる子どもは勉強もできる』という本（深代千之・長田渚左著、幻冬舎新書、2012年）を読み直し、改めてそうだなと思いました。東京大学教授の深代氏とノンフィクション作家の長田氏の対談形式の共著ですが、「九九もキャッチボールも、脳の中の神経回路を指令が伝わる道筋ができることで身につく。勉強と運動を分けて考えるのは間違いで、とりわけ子どもの知能を伸ばすには、十分な運動が不可欠。」などということがわかりやすく述べてありました。脳を活性化させるために、知・徳・体の調和のとれた育成が必要なことを、改めて認識いたしました。

車の停車

本校内には広い駐車場がなく、子どもたちと車が混在しながら通っています。子どもたちには広がらないで歩くよう指導していますが、できるだけ車の入らない環境が望ましいと考えています。校舎前に停車する必要がある場合は、中央のロータリを回って運動場側の壁際から停車をし、速やかに移動をするようお願いいたします。また、校外で停車される際には、学校からは少し遠くなるかもしれませんが、できるだけ広く、車の往来にあまり影響のない場所を選択していただきますようお願いいたします。

祇園歴史の旅（その54）「水道の父・吉村長策、ペストで焼かれた町」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「山ノ田貯水池、浄水場と市水道の完成により、市民は初めて安全な水を手軽に利用できるようになった。このとき貯水池をはじめとする水道施設の設計を行ったのが、海軍技師・吉村長策であった。1860年（万延元）に大阪で生まれた吉村長策は、工部大学校（現東京大学）を卒業後、最初の仕事として長崎市水道の建設に携わった。その後、大阪市水道、広島軍用水道、神戸市水道など次々に水道建設を実現し、1899年（明治32）12月に海軍技師として佐世保に赴任した。

着任後すぐに軍港水道、市水道の計画に着手し、1908年（明治41）までに山ノ田貯水池、浄水場を完成させた。これらの水道施設は、完成後100年以上経った現在でも使い続けられているものもあり、吉村技師の設計・施工の優秀さを物語っている。また吉村技師は水道だけではなく、海軍港湾施設建設の最高責任者として、立神係船池の設計も行っている。吉村技師は1911年（明治44）に佐世保を離れた後も、西日本各地で水道建設に携わり、その優秀な設計手腕を余すところ無く発揮し、多くの水道施設を建設した。まさに近代日本における『水道の父』といえる人物である。

軍港が開かれてしばらくの間は、水道施設や排水施設も不十分で、衛生面で大変劣悪だった。軍港の建設工事中にもコレラやチフスが流行し、1895年（明治28）にはコレラで200人あまりが死亡している。特に1907年（明治40）にペストが発生した下矢岳町は、トタンで囲われ町ごと焼き払われた。現在の佐世保中央インターチェンジがある付近である。焼け跡は矢岳練兵場となり、兵隊たちの訓練が行われた。」

今回は、「軍港の設備が充実する」と題して、立神係船池などをご紹介します…。